

平成28年度第2回ナセBA運営協議会議事録

1 開催日時 平成29年1月26日(木) 午後3時00分～午後4時30分

2 開催場所 ナセBA1階 体験学習室

3 出席者

(委員)

横戸 隆 (山形県立米沢工業高等学校校長)

加藤公一 (米沢市立第五中学校校長)

我妻 仁 (前市立図書館協議会会長)

吉原ゆみ子 (図書館サポーター)

菊池 修 (米沢市芸術文化協会副会長)

中嶋朱実 (米沢市芸術文化協会)

白田静雄 (リーガル店主)

計 7名

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

佐藤広明 (理事長)、菅野智幸 (常務理事)、村野隆男 (館長)、青木昭博 (主幹)、江部雄一郎 (図書担当)、遠藤朋香 (図書担当)、石黒志保 (郷土資料担当)、生熊郁子 (総務)

計 8名

欠席者

(委員)

土屋 宏 (米沢市立興譲小学校校長)

新藤 透 (米沢女子短期大学准教授)

田島奈央 (主婦)

計 3名

4 開 会 常務理事・菅野智幸

5 あいさつ 理事長 佐藤広明

ナセBAも開館して7か月になるところだが、業務の執行や施設の管理等も大分軌道に乗ってきた。昨年7月の開館時には大きな話題となり、県内外からの視察や様々な団体

の見学も相次ぐなど、ここまで図書館も学習室も市民ギャラリーも大盛況で、予想以上の利用状況となった。昨年12月末現在の利用状況は、図書館が17万8,553人、学習室が4万2,937人、市民ギャラリーが5万1,292人で、合計27万2,782人。図書の貸出人数は自動車文庫を合わせて7万2,902人、貸出冊数は27万5,541冊であった。

また、ナセ BA 周辺の通行量も増加傾向を示しているようだ。まだ十分とはいえないが、市民の皆さんの関心と期待に応えられたのではないかと考えている。

さて、昨年8月の運営協議会では二つの課題、即ち「ナセ BA に望むこと」と、「ナセ BA と伝国の杜の連携」についてご助言をいただいた。本日は、頂戴した御助言を受けてこれまで取り組んできたことや、現段階での成果と課題を第一の協議題とし、二番目に今年度のナセ BA 運営に関する財団自己評価の中間評価を議題として提案して、さらに改善するためのヒントやご助言をいただきたい。三つ目は次年度の市立米沢図書館及びよねざわ市民ギャラリーの自主事業についてもご意見等をいただきたい。

「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」をめざす図書館は、そこに向けて方向性を固め得たか、「芸術文化を高め、芸術文化に親しみ、活気あふれる市民の芸術文化活動の拠点」をめざすよねざわ市民ギャラリーは、そのための確実な一步を踏み出したのか。そうした観点から、委員の皆さんのご意見とご助言をお願いしたい。

財団としては、ナセ BA と伝国の杜という新旧2つの文化施設を、「郷土愛を育み、教育、学術及び文化を振興し、広域交流を促進する」拠点とすることを目標に掲げ、市民の生涯学習施設として、信頼感と魅力ある事業を展開し、適正かつ公平な業務に努めることを旨として運営に当たっている。引き続き、市民の皆さんの期待に応える運営に努めていくので、本日はそれぞれのお立場からのご助言やご提言を頂戴したい。

6 議事

運営協議会要綱第6条に基づき、我妻仁会長が議長として議事を進行。

議事1) 第1回ナセ BA 運営協議会の意見要望に対する取り組みについて

資料1

(1) ナセ BA に望むこと

(事務局)

学校側で用意するバスについては校長会等の確認が取れていないが、今のところ実績はない。公共機関については教育委員会を通じて申し入れをしている。

中高生への対応については、それぞれの図書館部会を通して色々とお話しているが、図書専従の先生がいないことや、各学校の現場の状況から、学校における具体的な取り組みは始まっていない。小国高校と置賜農業高校が、図書委員を連れて新しい図書館を視察に見えた。一中と西部小の団体見学の際には、郷土資料の原資料を見せるなど、米沢の歴史について、お話をさせていただいた。また、二年目になるが、こどもふるさと歴史講座で西部小と興譲小に出掛け、私が授業や見学会をさせていただき、授業ではなかなか触れられないことについてお伝えできた。来年度以降も要望があれば、応えたい。

一方、10月から巡回文庫が始まり、この間2回目の配本が終わった。これをきっかけに、生徒に図書館に足を運んでもらいたい。

また、館内の特集コーナーで現在「青春ボックス」コーナーを開催中で、高校生たちが足を止めている。同時に、特集コーナーで「古くて新しい本」を開設しているが、様々な層の方たちが本を手にとられている。今後もこういう取り組みを続けていきたい。

障がい者に関する事業については、今年度「読書バリアフリー研究会」に職員を派遣する一方、今後はニーズの把握に努め、録音室などの使い方について、サポーターとの話し合いも進めたい。

若手作家や高校生による展示への支援は、中高生にはぜひ自由に使ってもらいたく、顧問の先生を通して話をしている。また、今年3月に「ARTS MEET OKITAMA」という置賜全体をアートで盛り上げたいという趣旨のもとで、地元作家の作品を公募してギャラリーで展覧会を行う。これは若手作家を応援する意味を含めたイベント。

また今年度から「オープンギャラリー」と称して博物館の美術作品をギャラリーで展示した。

(2) ナセ BA と伝国の杜の連携について

(事務局)

レファレンスサービスについて、ナセ BA・伝国の杜それぞれでデータを蓄積している。今後より一層強化していきたい。また連携については、博物館で行っている展覧会について必ず館内で特集コーナーを設けている。今の「上杉鷹山と学びの時代」展も、博物館の学芸員と当館の郷土資料担当で事前に協議し、コーナーを設け、工夫した。

郷土資料だけでなく、昨年「時間旅行展」も難しい内容だったが一般図書のコーナーで特集展示を行った。今後も続けていきたい。

(3) その他

(事務局)

昨年ギャラリーで開催した「米沢の美術作家たち～昭和を生き抜いた11人」展で博物館資料を展示したのは、あくまでもナセ BA 開館のときのサービスのもの。博物館では観覧料金が発生し、ギャラリーは自由にみてもらうというのが基本スタンスである。

ギャラリーの使用が空く時期に、米沢市芸術文化協会の皆さんと連携して、来館者に楽しんでもらうような企画をとるところでやっていきたい。具体的には、四月中を通して、「春・桜・祭」というタイトルで芸文協の皆さんに作品を出品してもらい、博物館の美術作品も若干加えて展示を試みようと思っている。

(会長)

今の館長の説明でなにか確認したいことがあるかどうか。

私から、4～5月にギャラリーが空くのはなにか理由があるのか？

(事務局)

もともと例年空くような状態。様々な会の方たちは5月頃に年度のスケジュールを確認しているので、その時期は前のギャラリーでも空く傾向だったがナセ BA でもその傾向がみられる。3月はいっぱいだが、4月は部屋全体を使用することはない。

(会長)

生徒が夏休みの8月に使うことはいいのではないか。

(事務局)

一つの学校での展示だと共催にできず賃料が発生してしまうが、一校だけでなく、複数の学校や生徒さんの団体として使用すると、ギャラリーでも応援できると思う。

議事2) 平成28年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について

(事務局)

資料2 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価

自己評価の考え方の説明。

平成25年度から財団で始めた自己評価、今年度からナセ BA も行うことにした。

今回の**資料2**は、伝国の杜・ナセ BA 合わせての中間報告。

自己評価の低いものについて説明する。

(1) ① 郷土資料調査「2.0」 …

・調査自体は雪が降る前に完了した。今、報告書をまとめているため、この数字にしている。

③～④ 図書担当「3」や「2」が多い …

・中間報告での数字であり、最終的には達成できる目標だと思われる。

④「デジタルライブラリー」や「修繕・修理」 … 今年度中には難しい目標

(2) ④図書館だより… 現在まで2号発行しており、達成可能である。

ギャラリーにあわせた特集コーナー

- ・「鷹山」展の関連書籍コーナーを設けている。ギャラリーの企画に対しても今年度行いたく、最終的には達成できる見込み。

⑤ボランティアについて

- ・現在マニュアルを作成しており、今年度中には完成したい。本の返却や修理のボランティア活動は現在も行われている。

(4) ①貴重資料のデジタル化・広報物の発行

- ・今年1月から古文書系のボランティア活動が始動した。貴重資料のデジタルライブラリーのデータ化や古文書の翻刻など。
- ・「郷土資料の散歩道」は先人顕彰コーナーの展示の際に、名称は違うが配布している。「散歩道」の名称を内部で検討し、展示が特集コーナーで配布が必要な資料は提供している。

③各種アンケート

- ・今年度内の設置に向けて、内部で検討中。

(5) ④災害マニュアル

- ・火災時のマニュアルは作成済み、避難訓練も6月と12月に行っている。
- ・地震を想定したマニュアルは現在急ぎ作成中。訓練は3月に予定。

(事務局)

評価全体を通して、数値目標はそれなりに達成することができそうだが、それぞれの業務の過程も考えながら行っていきたい。

(会長)

ただいまの説明に対して質問はあるか。

(中嶋委員)

ボランティアの方への連絡があまり来ないと聞いている。

(事務局)

サポーターの登録人数は現在60名近くになっている。古文書のサポーターは1月から活動を開始している。

図書のサポーターは吉原委員にも来てもらっているが、書籍の配架整理、修理などが主になっており、それはサポーターの方の都合の良い時間に自由に来てもらっている。

一方「おはなしかい」や「ブックスタート」は決まったスケジュールなので、事前にサポーターの方に参加の可否を伺い、絵本の読み聞かせなどを行っている。

最初の申込段階で、活動可能な項目に丸をつけてもらっており、それに沿ってこちらは連絡しているが、年度が変わったら変更がないか確認の連絡をする予定。

(加藤委員)

図書館だよりを、校内で掲示するために PDF でもらえないか。各校で貸出ランキング等を貼り、ナセ BA コーナーを作成し、密に連絡をとれる方法を考えたい。

(事務局)

本のランキングは図書館だよりに掲載している。データもお渡ししたい。

議事 3) 平成 29 年度市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの開催予定事業について

(事務局)

資料 3について、館長より概略説明。

(会長)

館長の説明に対してなにか質問があれば。

では、最後に議事のその他について。

議事 4) その他

(事務局)

入館者について、昨年度末でおよそ 22 万人を突破している。平成 22 年度の統計では年間入館者は 22 万人で既にその数に到達している。開館前の議会説明では 22 万人の 3 割増し (28 万人) と予測していた。貸出冊数も順調、ギャラリーの入館者数も半年で目標値を突破した。

また、図書館利用の登録カードの新規登録者数は 5,000 人を超え、これは過去 5 年間の数字に匹敵する。

(会長)

議事1～4まで説明が終わり、それぞれ委員のみなさんから感想や意見などあればお願いしたい。

(吉原委員)

図書館ができて良かった。以前ならば図書館を利用しないような人も来館している。入館者数にも驚き、市民に受け入れられていると実感している。

サポーターで図書館に来ているが、スタッフの皆さんが非常に親切に教えてくれている。今までの図書館はフロアにスタッフがいなかったのも、サポーター活動をする上で助かっている。また、開架冊数が多いのはとてもすごい。

(横戸委員)

学校でも調べ学習や課題研究で図書館に来館している。図書館司書の先生が図書委員を連れて図書館に来た。これからも継続して連携していきたい。

もうひとつは、学習の場として図書館の学習室を生徒が使っている。加えて、郷土に関する研究や、展示コーナーなど美術部の展示はもちろん、生徒の学習発表の場としてナセBAを利用できたらと思う。

利用者について、年代別に数字がでるか？

(事務局)

貸出冊数と登録者数は可能である。全体の利用者数は印象でしか申し上げられない（目視でしか統計は取れない）。高校の図書館部会では一番最初に話をさせてもらった。米沢東高校の生徒さん（図書委員）は、サポーターに5人登録してもらっていて、部活と帰宅の合間に返却作業や修理などしてもらっている。

なお、特集コーナーが明日から展示替え。「昭和の喫茶店 VS 平成のカフェ」をぜひ楽しみにしていただきたい。

(加藤委員)

開館以来、図書館の役割を果たしているとみている。中学校でも書道展などすばらしいギャラリーで展示してもらい、喜んでいる。

しかしながら、近くの学校の生徒は利用しやすいが、（遠くの学校の生徒に対して）どう還元していけばいいか、市の校長会で提案している。

個人的には、ウッディコンサートは素晴らしく今後も継続してもらいたいと思っている。

(菊池委員)

入館者数について、大沼の時代のギャラリーと比べて2倍以上入っていてうれしい限り。

一つ提案だが、会場について外側に看板や掲示がないので中で何の展示をしているのかわからないといった意見が多いので良い方法はないだろうか。

また、(貸館の) 展覧会をしていても主催者側から用意していたパンフレット類がすぐになくなった等うれしい悲鳴を聞いている。

開館時の展覧会(アート NOW)の時に米沢出身の人の展示も行ったが、市外に住んでいて、ふるさとが米沢の方、そういう方からも米沢で展示がしたいという希望がでていいる。しかし芸文協に所属していないため、ギャラリーの使用料が減免にならない。今年は団体で行ったため減免となったが、そういった方が個展を開くときなど、なんとかならないだろうか。

また開催団体の高齢化が進んでいる。ギャラリーの天井が高いので作業が大変。芸文協としての話かもしれないが、展示作業をサポートする人を準備していかないといけない。

(事務局)

看板については設計者の意向もあり、景観上あまり好ましくない。また、ぜひ館内に入ってもらい空間の広がりを感じてもらいたいとの思いもある。

有償と無償の両方について、開館前から芸文協にも呼び掛けており、ギャラリーとしても来年度へ向けて調整していく。

米沢市外に住んでいて、ふるさとが米沢という方々の展覧会(例えば U ターン (Come Back) 米沢展)をギャラリーの自主事業とすることも可能。送料は出品者負担。あとは展示だけなので、込み入った作品でなければ費用はさほどかからない。

(菊池委員)

郷土資料調査について、来年度三沢地区ということだが、自分も現在県内各地の石碑・遺物を調べているがなかなかの報告書をもっても新しいものの調査が入っていない。

ぜひ米沢でも明治時代からの新しい石碑を調査してもらいたい。個人的には連れて行ってもらうたい。

(事務局)

郷土資料調査は、現在、神社やお宮を中心に境内の石造物に限っている。田んぼの中とか、家の中は対象外。

(菊池委員)

明治時代の遺物については？

(事務局)

そこまで手を広げるには手数が足りない。

(中嶋委員)

ギャラリーの展示などいろいろな作品が展示され、とても良い。学習室でも生徒たちはみな一生懸命勉強しているが、なにか飲食に関してトラブルとかは聞いてないか？

(事務局)

オープンギャラリーでもコンビニで買ってきて食べてもらっている。椅子が足りなければ、控室からテーブルを出して座ってもらっている。混雑する土・日など一部座れない高校生も見受けられるが、特にトラブルはない。

(中嶋委員)

ラーメンとかの匂いは気にならないか？

(事務局)

それも含めてフリーに対応している。

(中嶋委員)

(読書週間フェアの) リサイクル市は人が集まっているか？リサイクル市にはかなりの冊数が出るのか？

(事務局)

結構参加されている。今年是一日しか開催しなかったもので、来年度は連日にする予定。例年ファンの方がたくさんいて、お持ちになる方も多い。

(中嶋委員)

Book! Book! OKITAMA に何か協力しているか？

(事務局)

川西の図書館が始めたことだが、衛星ステーション的に共同事業を考えている。

(中嶋委員)

やはり菊池委員同様、看板があるといい。

展示は大きな作品が飾れるので、賑わいを見せている。オープンギャラリーで公募展等の情報や資料が手にいれやすいのもよい。

5月の連休に展示を入れさせてもらったが、人が集まる時期4月にも展示を入れたい。

(白田委員)

今年は雪灯籠40周年。西條天満公園でもボランティアで制作する予定。ナセBAと協力してやっていきたいと皆言っている。

(事務局)

ナセBAのこまやでも、「竹あかり」を設置する予定。

(会長)

2F図書館の入り口、特集コーナーをよく見ているが、こんな本もあるのだと新たな発見が多い。先日していた「ねこ」特集でも猫の本を館内で一人で探すのは大変。ありがたいコーナーなのでぜひ今後も展開してもらいたい。

「青春ブックス」、学生が足をとめているが、例えば過去の入試に出された小説とかの特集はどうか。

個人的な要望で無理だとわかっているが、貸出禁止本で高価な本(8,000円)を貸出してはもらえないか。補償金を利用者が出して、借りるような制度にするとか。

(事務局)

該当する図書があれば対応していきたい。高価だからという理由だけで貸出禁止なのではなく、みなさんが利用する書籍なため、貸出禁止にしている。複本があれば貸出すこともある。また「特別利用申請」で対応できる場合もあるので、お問い合わせいただきたい。

(中嶋委員)

そういった禁止本の複写は可能か？カラーも？

(事務局)

図書館規則に則れば可能。カラー印刷は1枚80円。

(中嶋委員)

美術本など禁止なものが多いので。

(会長)

図書館は「いきもの」であって選書が重要。財団が管理することになり、市の直営でなくなったが図書購入費は削られていないか。

(事務局)

1,400万円が図書購入費。

(会長)

ギャラリーを全室使用するといくらか。

(菊池委員)

1週間でおよそ14万円(体験学習室は除く)。減免されると、7万円。

(事務局)

来年度も今年度同様、8月と1月に協議会を開催する予定。時間は本日と同時刻に開催予定。近くなったらまたご連絡する。

12 閉 会 常務理事・菅野智幸